

学部・学科・方式	科目	訂正箇所	誤	正
文学部 英米文学科 (A方式) フランス文学科 (A方式) 比較芸術学科 教育人間科学部	日本史	P.12 Ⅲ 問6	選択肢に正解が複数あることが判明したため、全員正解とする。	
文学部 英米文学科 (A方式) フランス文学科 (A方式) 比較芸術学科 教育人間科学部	世界史	P.1 [I] 1.	…初代皇帝 (872~92) 人物の名を…	…初代皇帝の名を…
社会情報学部	英語	P.8 第4問 (I) 本文12行目	from advertizing…	from advertising…
社会情報学部	英語	P.14 (40) 選択肢 (1)	development of a new bacteria	development of new bacteria
社会情報学部	英語	P.15 (43)	…Paragraph 4…	…Paragraph 3…
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科	国語	P.10 問題文末から2行目	…「腹のうちに、母におくれたり」とは… 7	…「腹のうちに、母におくれたり」とは… 7
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科	国語	P.14 問十一	傍線部9「夜泣の松」…	傍線部9「夜泣きの松」…
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科 社会情報学部 (A方式)	日本史	P.2 問4 II	…箸 墓古墳…	…箸 墓古墳… (点を入れる)
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科 社会情報学部 (A方式)	日本史	P.8 問4 問題文1行目	…時期の出来事…	…時期にもっとも近い出来事…
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科 社会情報学部 (A方式)	日本史	P.13 問8 選択肢④	徴兵告諭	徴兵告諭
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科 社会情報学部 (A方式)	世界史	P.4 問題文下から4行目	… (18) 事件が起きたが、	… (18) が起きたが、
文学部 英米文学科 (C方式) 日本文学科 (A方式) 史学科 社会情報学部 (A方式)	世界史	P.10 [Ⅲ] 問3	選択肢に正解がないことが判明したため、全員正解とする。	
経営学部 (A方式)	英語	P.1 問題1 問題文2行目	…Interestingly, many of signals	…Interestingly, many of <u>the</u> signals
経営学部 (A方式)	英語	P.5 問題3 問題文12行目	were all aged 25 = 50, …	were all aged 25 <u>to</u> 50, …
経営学部 (A方式)	英語	P.10 問題4 選択肢7	stand-by	stand- <u>in</u>
経営学部 (A方式)	英語	P.11 問題5 問題文15行目	…for limited time…	…for <u>a</u> limited time…
経営学部 (A方式)	英語	P.12 問題5 問題文13行目	… (30) <u>Not if I can help it.</u>	… (30) <u>Not if I can help it.</u>
経営学部 (A方式)	英語	P.14 問題5 36)	選択肢に正解がないことが判明したため、全員正解とする。	
経営学部 (A方式)	英語	P.16 問題6 問題文下から8行目	…nine or so <u>way</u> of speech…	…nine or so <u>ways</u> of speech…
経営学部 (A方式)	国語	P.5 問三	…場合に最適なものを最適なものを次の…	…場合に最適なものを次の…
経営学部 (A方式)	国語	P.6 問五	…本文の第一、第二段落を読み、	…本文の第一～三段落を読み、
経営学部 (A方式)	国語	P.8 問十 選択肢④	生計を立てるためには	利潤のためには

国 語

注 意

1. 問題は全部で28ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 日本文学科受験者は問題四も解答すること。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
7. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
---	----------------------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------	-----------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

*
プロットは探偵小説というジャンルがこれほど遅ればせに登場してきた根拠を、犯罪捜査が科学的になった時期と結びつけて説明する。複数の証人と、証明の女王レキシーナ・プロバネオニスといわれた自白とがあれば充分であり、しかも証人の欠如は拷問で補えばよかった時代が終わって、情況証拠が捜査にとって不可欠になったのは、ヨーロッパでもようやく十八世紀中葉のことなのである。もちろん、情況証拠がかえって冤罪をつくり出すという危険性はあるにせよ、それでも拷問よりは文明化された手続が、これで可能になったのだ。¹ 情況証拠調べという手続は、暗示をふくむ痕跡を追う作業として、探偵小説の構成上の原理にかわるのである。それゆえ、プロットにとって、探偵小説は、『どこか怪しいぞ、というところから始まる』のだ。この怪しい点を、証言や自白からではなく、証拠の追跡によって、解明しなければならぬ。探偵小説が読者を惹きつけ引き込む手口は、プロットによれば、つぎの三つである。——第一に、謎解きの緊張。第二に、思いがけないものが暴露され、仮面を剥がれるということ。そして第三に、この暴露によって、物語が始まる以前の語られなかつたことがら、物語の前史が明らかにされること。プロットは、わけてもこの第三の点²が、探偵小説のもつとも本質的な特徴であると考えられる。

他の小説スタイルにおいて、出来事は、物語の進行のなかで、読者の目のまえで演じられる。³ ラスコリーニコフは、じつに叙事的かつ可視的に、金貸しの老婆を打ち殺す。この行為は読者の目から隠されず、その一挙手一投足が明示される。だが、それは逆に探偵小説では、たとえ物語の進行のなかで新たな殺人が起こることがあつても、それは、⁴ その物語以前の闇と密接に関連しているのであり、この闇を増大させ、解決を遅らせるのである。プロットは、この事前の闇を、人類の歴史の原初にある闇と関連させ、この世界秩序がそもそも隠された罪によって規定された善悪の尺度に支配されていることを暗示する。そのさいかれが、知らずに父を殺し母と結婚するオイディプスの闇や、捨て子であるフィールディングの『トム・ジョーンズ』の主人公の闇を引きあいに出しているのは、興味ぶかい。自分自身の素姓、自分自身の正体がわからないということこそは、探偵小説の秘密のひとつの極限的なありかたにほかならないからだ。

《どこか怪しいぞ、というところから始まる》とき、探偵小説は、遠い彼方に秘められた世界を追い求めるのとは、正反対の道をたどる。成立の当初から大都市の生活環境と不可分だった探偵小説は、日常のもっとも見なれた生活のなかに、怪しいものの痕跡をみとめるのである。遠くはなれた秘められた領域ではなく、もっとも近い現実のなかに、不可視の謎と犯罪がひそんでいるのだ。犯人は、日ごろ目のまえに姿を見せているごく見なれた人間たちのなかにいる。その姿をいつも見ていながら、それが殺人者であることを知らないのだ。ちょうど、都市の雑踏のなかで行きかうごく普通の顔に、犯罪者がひそんでいることを知らないように。疑いはじめれば、登場する人物のすべてが犯人である条件をそなえている。他人を疑っている自分自身もまた、犯人でありえないということはない。

《どこか怪しいぞ》という疑いは、それゆえ、痕跡を追う探偵自身をも対象から除外することはない。それどころか、もっとも怪しいもの、もっとも不確かで未知であるもの、それは、現在において、依然として自分自身にもっとも近い現実、とりわけ自分自身なのだ。エルンスト・プロツホは、「探偵小説の哲学的考察」を、このもっとも近い闇からのふたつの方向での脱出の道を示唆することによって閉じている。ひとつは、原因へと向かう道、つまり前史にひそむ謎をたずねて暴露する探偵小説の道である。そしてもうひとつは、結果へと向かう道、すなわち何か新しいものの形成を未来にたずねる芸術家小説の道である。そのいずれもが、どこか怪しいぞ、というところから始まる、とプロツホは言うのだ。たしかに、芸術家小説は、自己自身を探求しつづける人間が市民社会のなかで見出しえた最後の逃げ道だった。それが芸術小説ではなく芸術家小説とならざるをえないように、もっとも近いもののなかに遠い謎をさぐらねばならない人間の物語は、謎解きの過程そのものに主眼をおく（推理小説）ではなく、その過程を迷いつつたどる主人公にそくして（探偵小説）と呼ばれるにふさわしいのである。

謎や秘密とかかわることによってしか現実世界とかかわることができないわれわれを、探偵小説の主人公たちの一方の側、つまり探偵は代表している。もしも直視すれば不可視のものによって浸透されつくしていることに気づかざるをえないこの現実を、かれは、たまたま与えられた痕跡を手がかりにして、切り裂いていく。もう一方の側には、解くべき謎を探偵に提起する人間がいる。犯人と探偵は、月次な言いかたをすれば、共犯者であり、ともに相手を必要としている。だが、ここでは、通常の観

念とは逆に、犯罪者のほうが **A** であり、探偵は **B** なのだ。粉碎されるべき謎を探偵につきつける犯人は、現実が提供するあらゆる素材をつかつて、芸術作品としての謎を創造する。

探偵小説論の多くが、トリックの分類表や探偵の癖の本箱であるのは、奇妙なことだ。探偵と犯人との対決の場である探偵小説の世界が、この両者の関係のありかたそのものを考えるとところから見なおされるといふことは、めったにない。探偵小説の世界こそは、じつは秩序によって支配しようとする意志と、別の秩序を形成しようとする試行との、対決の場なのである。犯罪が、かならず革命的であり、権力秩序への叛逆である、というのではない。科学的に裏付けられた証拠や法的手続なるものによつて犯人に迫る探偵と、かれよりもさきに謎を創造し、この謎の範囲内に探偵を呪縛しながら、しかも追跡者にすぎない探偵に敗れる犯人——という関係の構造が、問題なのである。倒叙形式の探偵小説——つまりプロットが死体発見の前に描かれぬまま隠されているとした犯行そのものが、事前にはなく作品そのものなかでまず描写され、あらかじめこの前史を知っている読者が、何も知らずに追跡を始めなければならない探偵の手なみを見物する、という構造の小説——では、犯人の敗北はとりわけ決定的となる。そこでは、犯人が犯行の口を隠すやりかたが巧妙であればあるほど、初期の段階で探偵が頼りなければ頼れないほど、それはむしろ逆に探偵の犯人にたいする勝利を大きくする。すべてを知った神の視点に立つて事件解明の過程を眺める読者は、探偵とともに、あるいはむしろ探偵を出しぬいて謎をみずから解明する、という労苦さえ課せられずに、一部始終を見物する。⁸ 犯人は、ここでは、創造者ですらない。攻勢に出るのは探偵であり、犯人は探偵が仕掛けてくる罠や誘導訊問や心理的拷問に、ひとつひとつ対処するだけで精一杯なのだ。倒叙形式の探偵小説は、芸術はしよせんはかないこと、現実⁹は虚構の世界に勝つことを、探偵に証明させるのである。

ところが悪鬼のしわざのごとく見える犯罪の根源には、しばしば、その犯人でなければ⁹坐視したであろうようないっそう大きな犯罪や、その犯人でなければそれほど深く傷つくこともなかったであろうようなほんの小さな矛盾が、かくされている。これらの秘められた動機との出会いがかれらを犯罪者たらしめるにいたつたといふことは、かれらの人間的なゆたかさの証左にほかならない。その犯罪を、解きたい謎のかたちでなしとげたといふことは、¹⁰かれらのたぐいまれな創造力を物語っている。

(注)

*プロツホロエルンスト・プロツホ。ドイツの哲学者。

*ラスコーリニコフロシアの小説家ドストエフスキの代表作『罪と罰』の主人公。

*オイディプスギリシア神話の英雄。実子の手で殺されると予言された父王により赤子のうちに捨てられるが、何も知らぬまま結局は父王を殺し母と結婚する。

*フィールディングの『トム・ジョーンズ』イギリスの小説家ヘンリー・フィールディングの代表作。主人公トムは捨て子として設定され放浪の旅に出る。

問一 傍線部1「情況証拠調べという手続きは、探偵小説の構成上の原理にかわる」とはどのような意味か。その説明として最適な

ものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① どこか怪しい証人といった暗示的な仕掛けは必要なくなったという意味。
- ② 情況証拠による科学的犯罪捜査が探偵小説の根幹になったという意味。
- ③ 拷問による自白など冤罪性のある解決は探偵小説に不要になったという意味。
- ④ 共同幻想的による暗示的なストーリーが探偵小説の主流になったという意味。
- ⑤ 情況証拠による謎解きの緊張感が作品の優劣を決するようになったという意味。

問二 傍線部2「第三の点が、探偵小説のもっとも本質的な特徴である」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 2。

- ① 実は探偵自身が犯人だったという究極の謎を最後に暴露しなければならぬから。
- ② 謎解きや暴露だけでなく、不可解な余韻が残らなければ創作とは言えないから。
- ③ 物語以前の犯人の素姓や出来事のお知らせこそ探偵小説における秘密の極限だから。
- ④ 事件が起きた原因をラストの犯人の自白で締めくくることが最も劇的だから。
- ⑤ 時系列的展開では、やがて消去法的に犯人の正体がわかってしまうから。

問三 傍線部3「叙事的かつ可視的に」とあるが、その意味として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

- ① 人物の心情を掘り下げカメラのような目線で、という意味。
- ② 明晰な語り口で事実の裏まで見通すように、という意味。
- ③ 人物描写は避けて視覚的記述を優先して、という意味。
- ④ 淡々たる記述でしかも事実そのままに、という意味。
- ⑤ 大らかな態度と徹視的な視野によって、という意味。

問四 傍線部4「物語以前の闇」と同じ意味で用いられている語句を次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 権力
- ② 素姓
- ③ 都市
- ④ 痕跡
- ⑤ 前史

問五 傍線部5「成立の当初から大都市の生活環境と不可分だった探偵小説」とあるが、その理由として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 辺境の地では登場人物も事件の展開もバリエーションに乏しく創作しにくいから。
- ② 大都市の日常にこそ殺人者や犯罪者があつうの顔で雑踏に紛れているものだから。
- ③ 都市の生活は整然としており、それだけに事件の発生する必然性に満ちているから。
- ④ 人間の得体の知れなさはどこでも同じだが大都市の方が舞台として親しみやすいから。
- ⑤ 人口が密集しているほど事件の発端となる異常者の存在が確実に多いから。

問六 傍線部6「もつとも怪しいもの、くとりわけ自分自身なのだ」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

- ① どれだけ情況証拠を集めてみても、探偵の心のなかには事件を完全に解決しえたかという不信感が必ず残るものだ、という事。
- ② 探偵小説読者には、実は探偵こそが犯人なのではないかという根本的な疑いから逃れることはできない宿命があるのだ、ということ。
- ③ あらゆる謎と解決へのストーリーを完璧に書き上げたとしても、作家は最後には創造主である自分が真犯人ではないかと思ってしまう、ということ。
- ④ 探偵小説で作家が犯人を明かしたにせよ、それは他の文学の場合と同様、つまりはその作家の自分探しに他ならなかった、ということ。
- ⑤ 探偵小説で書かれてきたあらゆるパターンの作品も、けっきょくのところは事件の謎を解くだけにすぎない限界がある、ということ。

問七 傍線部7「芸術家小説の道」とあるが、その意味として最適なものをつぎの①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **7**。

- ① より芸術性の高い作品を心がけて探偵小説を書き続けること。
- ② 作家が芸術家としての自分自身を探索し続けること。
- ③ 現状維持の作家でなくつねに新しいものに挑戦し続けること。
- ④ 娯楽作家ではなく芸術家としての誇りをもって作品を書き続けること。
- ⑤ どこか怪しいぞ、という原点を忘れずに新作に意欲を燃やし続けること。

問八

A に当てはまる最適な語句をつぎの①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **8**。

- ① 消極的
- ② 確信犯
- ③ 片棒役
- ④ 被害者
- ⑤ 創造者

問九

B に当てはまる最適な語句をつぎの①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **9**。

- ① 達観者
- ② 被験者
- ③ 破壊者
- ④ 構築者
- ⑤ 決定者

問十 傍線部8「犯人は、ここでは、創造者ですらない」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **10**。

① 倒叙形式の探偵小説では事件や犯人の隠蔽の工夫や秘密などすべてわかっており、犯人は初めから探偵を呪縛する創造性さえあたえられていないということ。

② 探偵と犯人の共犯関係が成り立たないと、そもそも探偵小説の基盤である謎解き自体が無意味になり、真の創造者は読者に移行してしまうということ。

③ 全知の読者が確保されたところでは、犯行動機の解明という探偵による推理の出番すらなくなり、犯人はまったく希薄な存在になってしまうということ。

④ 初めから犯行解明のための情況証拠が登場人物たちの手にあるかぎり、どれだけ緻密な策略を立てても犯人は単なる操り人形でしかないということ。

⑤ 時系列にそったストーリー展開でなければ読者は混乱し、犯人の言動はもっぱらその混乱を生じさせないように固定化されてしまうということ。

問十一 傍線部9「坐視」の意味として最適なものを次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **11**。

① 瞥

② 凝視

③ 傍観

④ 刮目

⑤ 披見

問十二 傍線部10「かれらのたぐいまれな創造力」とあるが、その意味の説明として最適なもの、次の①～⑤より選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 12。

① 事件が探偵に解き明かされてゆく過程を、それが平凡な日常事であるかのように見せかけ、大事件のリアリティーを完成させる演技力のこと。

② 誰もが気にもとめないようなささいなことを犯行の動機とし、しかもその犯罪解明の糸口を巧みに隠蔽すべく策略を弄した犯人のみごとな手腕のこと。

③ 大胆な犯罪の動機が秘められたままで、誰にも気づかれることなく計画を遂行してしまう犯人の透徹した精神力のこと。

④ 動機がまったくつかめないような、しかも情況証拠などのあらゆる科学的捜査を排除する完全犯罪実現への周到な計画実行力のこと。

⑤ 探偵小説もしょせん推理小説であるのに、ただの謎解きで終わらせない芸術的読後感を読者にあたえる表現力のこと。

問十三 本文の趣旨として合致しないものを次の①～⑤より一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 13。

① 謎解き、暴露、物語の前史の解明が探偵小説には不可欠の要素である。

② 倒叙形式の探偵小説の場合には情況証拠を探偵が集めることに意味はない。

③ 探偵小説における物語以前の闇は人類の歴史の原初にある闇と関連している。

④ 大都市生活はもつとも近い現実であるがゆえに不可視の謎と闇をはらんでいる。

⑤ 犯人とはささいな事柄を動機に難解な謎に満ちた事件を作り上げる創造者である。

問十四 二重傍線部「月次」の読みを平仮名で記せ。解答用紙その(2)を使用。

二 次の文章は、主人公樂阿弥が東海道を江戸から京へ上る道中の名所について記したものである。これを読んで、後の問に答えよ。

金谷かなやより西坂にっまがへ一里二十四町

坂の上に、諏訪の原町あり。坂は上下十六町あまりの坂なり。茶屋、坂の上にある。

菊川は、坂の下なり。河上は、菊が淵と名づく。菊の花ありといふ。ここは、いにしへの名所なり。もろこしには、南陽県の菊川あり。その流れを飲むものは、命をながくたもちしとなり。今この菊川も、むかしは1さもありつらん。今は、茅ぶきの茶屋のみあり。矢の根鍛冶あり。樂阿弥、かくぞつぶやき

問ひよればかなしき金谷名どころのあととはこそぞと菊川の宿

小夜の中山。ここは、いにしへ、西行法師、修行のついでに、この所を通りて、

2年たけて又こゆべきと思ひきや命なりけりさよの中山

と、よみけるとかや。『

B

』にしるせり。

むかし、西坂の里に、女ありけり。金谷の里に、親ありて、3行きける。道にて、ぬす人のために、ころされ侍り。その女は、はらみて、この月、子うむべきに4てありけるに、ここの右の方なる山の内に、ある法師の住みけるが、あはれがりて、母が腹をさき、子をとりいだし、そだて、その子十五になりける時に、法師かうかうと物がたりしければ、うちなきて、法師にもならず、寺をしのびいでて、池田の宿に行きて、ある家のつかはれものとなり、田つくり、柴かりて、月日をおくり、立居寝起きに、常に口ずさびて、「命なりけりさよの中山」と、いひけるを、あるじ聞きて、日ごろへて、後にとひけるは、「つねに6命なりけり」といふ歌を口ずさぶは、いかなるゆゑぞ」といふ。この者うちなきて、「我は腹のうちにて、母にわかれ、父も行き方なくなりぬ」といふ。あるじ、おどろきていはく、「腹のうちにて、母7におくれたり」とは、いかなる事ぞ」とへば、「わが母は、それがしの生れ月にあたりて、人にころされて、むなしくなりけるを、腹をさきてとり出だし、そだてられ侍り」といふ。あるじ

のいはく、「それは佐夜の中山にての事なり。そのころせしぬす人は、となりの家のあるじなり。そのとき、母が身にまとへりし小袖は、なににの色なり。不便なる事ぞかし。かたきをうちなば、われも、ちからをそへ侍らん」とて、その夜、となりのあるじをうちけり。「いのちなりけり」といふ歌をとなへて、親のかたきをうちけり。その子は出家して、山にこもり、父母の菩提をとぶらひ侍り。その寺に、無間の鐘あり。二月の初めの午の日、開帳ありといふ。

佐夜の中山より、十町ばかりを過ぎて、夜泣きの松あり。この松をともして見すれば、子どもの夜なきをとどむるとて、往来の旅人けづり取り、きり取りける程に、その松つひに枯れて、今は根ばかりになりけり。

この道、夜ぶかに出づべからず。折々あしき事ありといふ。

〔東海道名所記〕による

(注)

*無間の鐘 〓この鐘をつくると来世では地獄に落ちるが、現世では富を得るといふ伝説がある。

問一 傍線部「さもありつらん」とはどのようなことか。最適なもの次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

は 14。

- ① 名が残るだけではなく、川が流れていたのであろう。
- ② 唐土の菊川のように、その水で酒を造ったのであろう。
- ③ その名の通り、菊の花が咲き乱れていたのだから。
- ④ 唐土の菊川同様、その水を飲む者は長寿であったのだから。
- ⑤ 唐土の菊川のように、この地も早くさびれたのだから。

問二 空欄 A には、どのような語が入るか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① けり ② ける ③ けれ ④ ぬ ⑤ ね

問三 傍線部 2「年たけて又こゆべきと思ひきや」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 壮年になってから再び越えなければならぬと思ったのだ
② 年が改まってから再び越えようと思ったのだ
③ 年月が過ぎてから再び越えるのが良いと思ったのだ
④ 年老いて再び越えることができると思っただろうか
⑤ 年を経てきつと再び越えるに違いないと思っただろうか

問四 空欄 B に入る語として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

- ① 万葉 ② 枕草子 ③ 古今 ④ 大鏡 ⑤ 新古今

問五 傍線部 3「行きける」の主語は誰か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

- ① 女 ② おや ③ ぬす人 ④ 子 ⑤ 西行

問六 傍線部 4「に」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

- ① 完了の助動詞「ぬ」の連用形
② 断定の助動詞「なり」の連用形
③ 格助詞「に」
④ 接続助詞「に」
⑤ 終助詞「に」

問七 傍線部5「かうかう」とはどういうことか。その内容として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解

答欄番号は **20**。

- ① 金谷の親のこと
- ② 菊川の地名の由来
- ③ 西行法師の歌のいわれ
- ④ 楽阿弥の歌のいわれ
- ⑤ 子の出生のこと

問八 傍線部6「命なりけり」といふ歌を口ずさぶ理由は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解

答欄番号は **21**。

- ① 母と死に別れたから
- ② 西行の歌に感動したから
- ③ 菊川を詠んだ有名な歌だから
- ④ 楽阿弥の歌を聞いたから
- ⑤ 盗人を守るまじないだから

問九 傍線部7「母におくれたり」とはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

は **22**。

- ① 母に追いつかなかった
- ② 母に気おくれた
- ③ 母に劣った
- ④ 母に先立たれた
- ⑤ 母を見守った

問十 傍線部8「不便なる」はどういう意味か。最適なものをつきの①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

23。

- ① 可愛い
- ② 不都合な
- ③ かわいそうな
- ④ 機敏でない
- ⑤ 才能がない

問十一 傍線部9「夜泣きの松」とは何か。最適なものをつきの①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

24。

- ① 深夜に子供の夜泣き声が出て、旅人の足を止めるといふ松。
- ② 火を灯して見せると、子供の夜泣きを止めることができるという松。
- ③ たいまつとして旅人に削り取られたために、夜な夜な泣くという松。
- ④ たいまつとして灯すと、夜泣石の泣き声を鎮めるといふ松。
- ⑤ 松の泣き声を止めるために切り取られ、ついに枯れた松。

三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

ヨーロッパ大学史のなかで学問の自由を考える際にまず取りあげなければならないのは、大学自治の起源としての中世大学の世俗権力および教会権力からの独立についてです。中世の大学は、学生と教師それぞれのギルド的な組合、^{*} 社団として誕生し、世俗・宗教両権力との巧みな位置取りによって特権を獲得してきました。こうした中世の社団的自治を大学自治の起源とみなす考え方はいまでも強くありますが、¹ 注意しておかなくてはならないのは、¹ ここでいう自治は後の学問の自由に直接つながるものではないということす。ルネサンスから一七世紀科学革命以前と以降とでは学問についての考え方自体がまったく異なっており、未知のなかに真理を探究する自由で創造的な営みとしての学問という考え方は、大学成立からはるか後に、大学の外部で育ってきたものなのです。ただ、社団としての大学という組織原理とその特権は、その後の大学のあり方を永く規定しました。

ヨーロッパの大学はその後、宗教改革にもなう宗派化とよばれる改革や性格の変化を経て、大きく姿を変えていきました。

なかでも重要だったのは、近世の啓蒙絶対主義君主による新構想大学の創設です。主権国家体制の成立と並行して、大学は国家や君主への **A** を強めたのです。よく知られているのは、一七世紀末のブランデンブルク辺境伯領(後のプロイセン王国)のハレ大学、一八世紀中葉にハノーファー選帝侯(侯はイギリス国王を兼ねていました)によって設けられたゲッティンゲン大学といったドイツの大学です。ドイツの著名な哲学者であるライプニッツ(一六四六―一七一六)も関与したサンクト・ペテルブルグ科学アカデミー付属大学やモスクワ大学の創設も、これにつけ加えることが可能です。特にゲッティンゲン大学では、一七世紀科学改革と哲学的認識論の展開に基づく学問観の刷新に対応した大学組織論が追求され、ゼミナールなどの新しい授業形式、大学図書館や天文台などの施設設備が考案されました。また、² 大学教授の研究・教育上の自由の保障も萌芽的に図られています。ここで重要なことは、この革新が、ルイ一四世のヴェルサイユ宮殿を模して各地に作られた壮麗な宮殿建築と同一次元の、**B** の栄光と威信のためのものだったということす。また、大学教授団が、**B** に仕える特権的官吏集団の一角だったことも想起しておかなくてはなりません。学者や文士と官僚は重なりあっていたのです。私自身が検討した事例で

は、ライプニッツはドイツ各地の宮廷に官僚として二股三股かけて仕えただけでなく、たとえばロシアのピョートル大帝にも相当の阿諛^{あゆ}ツイシヨウ³ぶりを發揮していました。七年戦争(一七五六―一七六三年)の時期にロシアに占領されたケーニヒスベルクで、ロシアの女帝エリザヴェータに教授昇進を願ひ出たカントの態度も、厳格主義的な彼の道徳説を想起するならば、あまり褒められたものではありません。それはともかく、啓蒙絶対主義期以来ドイツでは、国家による「造物物」として大学を捉える大学観が支配的になっていきました。学問の自由とは、国家造物物としての大学と特権的集団としての大学教授に認められた自由⁴に他ならなかったのです。こうしてヨーロッパの大学は、中世以来の社団としての性格と、近世的な国家造物物としてのそれとを組み合わせた、複雑な性格をとるようになりました。

このような一八世紀の展開は、ベルリン大学の創設(一八一〇年)とも深く関わっていました。ベルリン大学創設はこれまで永く、^{*}フンボルト理念に立つて大学の自治と学問の自由を原理的に確立させた画期として理解されてきました。しかし、最近ではこうした見方自体が相対化されてきています。啓蒙絶対主義改革から一九世紀前半にいたる相当長期の時間のなかで徐々に形成されてきた大学のあり方についての合意が、二〇世紀初頭にフンボルト理念として発見されたのだと考えられるようになってきたのです。もつと重要なことは、フンボルト(一七六七―一八三五)やカント(一七二四―一八〇四)らによる学問の自由を掲げた大学の理念は、文化国家と呼ばれる国家像と表裏一体だったということです。彼らによれば、国家に制約されない自由な思索に基づく学問の発展とそれを前提にした自由な大学教育こそが、いわば予定調和的に国家の発展をもたらすのであり、それゆえ大学への国家の介入は不要だということです。この議論では、国家と学問や教育との緊張関係は原理的に排除されています。このような大学論の性格を考える際に、大学における官僚養成機能の強まりと官房学と呼ばれる統治のための学の発展とが手を携えて進んだことは示唆的⁵です。カントの大学論では、哲学部には国家介入をいっさい認めないのに、法学部や医学部については口出しが当然視されていたことも言い添えておきましょう。

以上はプロイセンを中心としたドイツ型の展開ですが、そのおとなりのハプスブルク帝国では、大学教育は固定カリキュラムに沿うべきものとされていて、大学教授による教育の自由はそもそも想定外でした。フランスでは、革命期からナポレオン期に

かけて大学は全廃されてしまい、かわりに設けられたのはグランゼコールと呼ばれる超エリート的で中央集権的な高等専門学校の体制であり、およそ大学の体をなさないファキュルテとよばれる単科の講義のための機関でした。なお、一九世紀のフランスの文脈で教育の自由として語られるのは、近世に教育を牛耳っていたイエズス会などの教団による私立教育機関の復活であったことも指摘しておかなければなりません。このように、ベルリン大学が創設されたからといって、全ヨーロッパ規模で学問の自由が原理的に確立させられたというわけではありません。

もう一点重要なことは、大学教授団と大学生とは、ドイツでは教養市民層と呼ばれる高度な教養を備えた知的な中産階級上層という特定の階層集団の中核をなしている、大学は、近世までの身分的階層構造にかわって、C に基づく支配的集団を再生産する場だったという事実です。⁶近代市民社会とは、財産の有無以上に学識と教育によって正統化された社会的分断を階級階層構造の本質とする社会なのです。その意味で学問の自由は、引き続きある種の階級特権としての性格をはらんでいます。

さて、文化国家説に基づく学問の自由と国家的発展との予定調和という信念にもかかわらず、一九世紀前半のヨーロッパ、特にドイツにおける大学史の展開はこの信念を裏切るものでした。ナポレオン戦争後の秩序化と安定をはかったウィーン体制のもとで復古主義が強まると、大学のなかで育ちつつあったナショナリズムやリベリズムの政治思潮との緊張をもたらしました。ブルシェンシャフトと呼ばれる自由主義的な学生団体・運動への弾圧事件、自由主義的憲法を擁護するゲッティンゲン大学教授らの免職事件などが特に有名です。同時期にロシアでは、生まれたばかりの大学に存廃の危機が生じています。一八世紀末の分割後のポーランド貴族によるナショナリズムの拠点になったロシア帝国のヴィルノ大学は、一八三〇年のフランス七月革命に触発されたポーランド蜂起を機に廃止されてしまいました。国家営造物としての大学の前にD は、存廃さえやすやすと決めることのできる絶対的権力として屹立したのです。ウィーン体制脱却が目指されるなかで、一方での自由主義やナショナリズムの運動の高揚と、他方での文化国家説的な大学論・陶冶論の継承・発展とが相俟って、一八四八年革命のさなかに起草されたフランクフルト憲法案に学問の自由の条項が盛り込まれ、これが一八五〇年プロイセン憲法にも継承されました。特権として

の学問の自由は、現実の熾烈な政治経験を通じて鍛えあげられ、憲法規範化されたというわけなのです。

(橋本伸也「大学と国家」による)

(注)

* 社団 II 国家から一定の独立性と特権とを認められた団体。同業者団体であるギルドはその一種。

* 一七世紀科学革命 II イギリスの科学史家バターフイルドの提唱した説で、コペルニクスやニュートンなどの業績に代表される近代科学の成立を、近代より前の時代から近代を画する時代区分点と捉え、産業革命にならって科学革命と名づけたもの。

* フンボルト理念 II ベルリン大学創設に際し、基本構想を策定したフンボルトの提唱した教育理念。すでに解決済みの知識を教え、学ぶ大学の前段階の教育に対して、学問をいまだ完全には解決されていない問題として捉え、常に真理の解明をめざす研究の場と大学を位置づけ、研究は国家や社会など大学外部の干渉から自由である必要があるとする。

問一 傍線部 I「ここでいう自治は後の学問の自由に直接つながるものではない」とあるが、その理由の説明として最適なものを

次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 学問の自由は、宗教改革後の新構想大学においてはじめて獲得されたものであったから
- ② 中世の大学における自治は、社団としての独立性や特権の保持を目的とするものであったから
- ③ 中世の大学は、世俗権力および宗教権力の影響から完全に自由であったわけではなかったから
- ④ 中世の大学において認められていた自治は、一九世紀前半にいったん廃止されたから
- ⑤ 中世の大学は学生と教師それぞれのギルド的な組合・社団に分裂しており、一元的な自治ではなかったから

問二 空欄 A に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 26。

- ① 依存性
- ② 影響力
- ③ 指導力
- ④ 独立性
- ⑤ 発言力

問三 傍線部 2「大学教授の研究・教育上の自由の保障も萌芽的に図られています」とあるが、ここにいう「自由」とはどのようなものか。説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 27。

- ① 中世の大学における社団的自治を発展的に継承した研究・教育上の自由

- ② 国家造物物としての大学と官吏集団としての大学教授に特権として与えられた研究・教育上の自由

- ③ 一七世紀科学革命と哲学的認識論の展開に基づく最新の学問観に裏づけられた研究・教育上の自由

- ④ 今日の学問の自由に直接つながってゆくことになる初期の段階の大学の自治と研究・教育上の自由

- ⑤ 後にフンボルト理念として発見されることになる近代の大学のあり方のさきがけとなった研究・教育上の自由

問四 空欄 B に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 28。

- ① 大学

- ② 世俗権力

- ③ 君主と国家

- ④ 啓蒙絶対主義

- ⑤ ハノーファー選帝侯

問五 傍線部 3「ツイショウ」を漢字で表すとき、最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 29。

- ① 追承

- ② 追従

- ③ 追笑

- ④ 追頌

- ⑤ 追賞

問六 傍線部4「二〇世紀初頭にフンボルト理念として発見されたのだ」とあるが、それはどのような意味か。説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 30。

① ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、これに先行して著された哲学者カントの大学論とほぼ同趣の内容であったけれども、二〇世紀初頭の段階ではカントの大学論はいまだ一般に知られていなかったため、フンボルトの打ち立てた理念として世間に受け容れられてしまった教育史上の経緯をいう。

② ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、その後、大学教育のあり方を規定する最も重要な理念としてドイツを超えて世界中に拡大していったが、二〇世紀の初頭になって改めてフンボルトの功績が認められるようになり、彼の功績を称えてフンボルト理念という名称が世界的に採用されるようになったことをいう。

③ ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、実際には啓蒙絶対主義改革から一九世紀前半に至る過程で徐々に形成されてきた大学のあり方についての合意事項と理解すべきものであったが、フンボルトの策定した文書にそれを見出だした二〇世紀初頭の研究者が、フンボルトの創始した理念と考え紹介したことをいう。

④ ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、必ずしもフンボルトの独創というわけではなかったが、啓蒙絶対主義改革以降、大学関係者たちによって長い時間をかけて蓄積されてきた大学のあり方に関する合意事項を体系化した功績は大きい。その点を踏まえて二〇世紀初頭にフンボルト理念と名づけられたことをいう。

⑤ ベルリン大学創設に際してフンボルトの示した高等教育理念は、大学関係者を除けば一般に承認されていたわけではなかったため、その後一世紀近く世間に知られずに埋もれていたが、二〇世紀初頭になって再び認められたことをいう。

問七 傍線部5「示唆的」とあるが、具体的には何を示唆するか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **31**。

- ① 大学という組織が、本質的に国家の運営を担う官僚養成を目的とするものであったこと
 - ② ベルリン大学の創設が、大学の自治と学問の自由を原理的に確立させた画期であったこと
 - ③ 自由な思索に基づく学問の発展と自由な大学教育こそが、予定調和的に国家の発展をもたらすこと
 - ④ フンボルトやカントらの掲げる大学の理念は、文化国家と呼ばれる国家像と表裏一体であったこと
 - ⑤ フンボルト理念が、実際には長期にわたる時間のなかで多くの人々によって形成されたものであったこと
- 問八 空欄 **C** に入る語句として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **32**。

- ① 学問の自由
- ② 社団的自治
- ③ 知識と学歴
- ④ 啓蒙絶対主義
- ⑤ 主権国家体制

問九 傍線部6「近代市民社会」について、筆者はどのように考えているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **33**。

- ① 学問の自由の上に成り立つ文化的社会
- ② 中産階級上層を中核とする文化的社会
- ③ 学識と教育によって再編された平等な社会
- ④ 受けた教育の差によって分断される階級社会
- ⑤ 身分に関係なく、学識と教育が尊重される社会

問十 空欄 **D** に入る最適な語を、文中より抜き出して記せ。解答用紙(その2)を使用。

以下の問題は、日本文学科受験者のみ解答すること。

四 次の文章は『夜の寢覚』の一節である。出家した乳母を見舞いに九条を訪れた中納言は、物忌のために隣家に身を寄せていた太政大臣の次女中の君を垣間見て心ひかれる。側仕えの者から、宮の中将が石山で言い寄ったと噂される但馬守の三女が方違えのために隣家に来ていることを事前に聞いていた中納言は、垣間見た女性を但馬守の三女と思ひ込み、宮の中将を装って一夜をとにもする。都に帰った中納言は中の君のことが忘れられず、再会のすべを模索していた折、偶然にも宮の中将と出会い、中の君に関する情報を聞き出そうとする場面である。これを読んで、後の問に答えよ。

暮れゆく空のみ眺められつつ、¹すずろに心は騒がれ、あくがるる心地すれど、我とは知られじと思ふ。堅からむ物忌に、心合はする人なくては、昨夜のやうに紛れ入るべきやうなしと推し量らるれば、²思ひ絶えたるも、苦しきまで思さるれば、里へもまかだたまはで、御宿直所に、今宵もいとさやかにさし出づる月の光、³姥捨山の心地して、人やりならず、いみじく物思はし。面杖つきて、つくづくと眺め出でつつ、昨夜の面影は身を離れず、⁴なにの人目やと、うち名のりても、駒の脚とくふりはへまほしく、眺め入りたまへるに、人しもこそあれ、宮の中將の参りたまへるさへ、あはれになつかしくおぼえなりて、「内わたりにても、とかくたたずみ紛れ歩くことは、⁵下臈にはべりしときだに、⁶身につきなきことに思ひ知り、ならはざりしことにて、いとどうひうひしからむもつつましく、⁷中宮の御かたのは、みな人目馴れて思ひはべるも妬さに、ふり離れて眺めはべりつる月影の過しがたさを、⁸折うれしう」と呼び寄せて、かの石山にて言ひ寄りけむことの、言ひ出でさせて聞かまほしければ、例ならずうち乱れて、世の好色物語、また、ものに詣でてさるべき人は見たりしやうなど語り出でたるに、中將もうちとけ、思ふもしるく、「去年の秋ごろにやはべりけむ、石山に忍びて籠りあひてはべりし人、思ふほどよりもよしならず、局などの気配もてなしたりしかども、心もとどめず、ひとへに行ひはべりしに、曉にかかる月の、谷の底さへ残りなくはべりしかば、とかく立ちめぐりつつ眺めはべりしに、かの局は出づる気色にて通りはべりしを、立ち隠れて見はべりしかば、ことごとしくもてなしかしづ

きて、あまたはべりしなかに、目やすき人こそはべりしか。月の桂の空目にやとは思ひながら、過しがたくはべりて、下りぬめりと見送りて、

さやかにみつる月かなことならば影を並ぶる契りともがな
と言はせはべりしかば、いととく、

天の原雲居はるかにゆく月に影を並ぶる人やなからむ

とこそ言はせてはべりしか」と語るを、されば、さやうに言ひ返すべくもあらず、誰とはなく、ゆくりなきほどのこととはいひながら、秋の風に吹き乱る刈萱かりあやの上の霧、乱れ散りつらむ気色したりつること、らうたさはまづ思ひ出でらるるに、涙ぐまれて、「さてさて」といたく聞きとどめて問ひたまふ。

「その後、影並べむの気色ありや。並べやしたまひし」と問ひたまへば、「さまでも尋ね寄りさぶらはず。折々おとなひはべるに、にくからず答へはべれば、ひき切りがたくて、おのづから、さもはべる折々過しはべらざりしかども、何かは、わざとも人も思ふべきことならねば、絶えて久しくなりはべりぬ」と、我が心にだにただ今他事なく染みかへり、あとより恋のせめくる心地する人のことを、いとなほざりに、ことなしびたる気色の心妬ながら、いで、さのみは世におほえじを、たださりげなく言ひなすらむとおほゆれば、「こよなくおほしおとしめたる人の、すぐれて心ざしのゆくにまかせでや、人はあらむとする」と問ひたまへば、「それは、人の心々にこそさぶらはめ。まことに口惜しき賤にも、宿世といふものにひかれ、ただ我が心ざしあるを用ゐる人もあるぞかし。されど、なにがしは、明日の契は知らず、今宵まで思ひたまふるやうは、なほ品ほども侮らはしからざらむ人聞こそ、深き心ざしなくとも、用ゐらるべきものにはべれ。ただし、そのなかに、ことぞはべる。やむことなからずとも、父母も添はず、心細げにて、思ひもかけぬ山里、蓬、葎のなかに、かたち、有様をかしからむ人を見出でては、そは品ほどを尋ねえらるべきにもはべらず、いみじう心苦しう、あはれに、様ことに思ひはべりぬべし。この石山の月影は、おのづから世を見たまふるに、そのほどはさばかり目やすくはべり。ただ、それに親もたち添ひて、もの頼もしげににぎははしきおほえの、いみじくふさはしからぬにより、所がらの忘れがたかりぬべき有明をも、せめて思ひ消ち、文ばかりをだに繁くやりはべらず。

『その人の女をこそ、いみじく懸想すなれ』など、我は我と思ふとも、まことしくとりなし言はれむ音聞の、何ばかりならぬ身の際にもなほ苦しく思ひたまひて、とどめてしぞ」といふ心あがり、いとこよなくもの遠し。

(『夜の寢覚』による)

(注)

*中宮Ⅱ中納言の妹で、中納言は日頃から中宮の部屋を訪れていた。

問一 傍線部1「すすろに」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **34**。

- ① かすかに ② しだいに ③ ときおり ④ ひたすら ⑤ わけもなく

問二 傍線部2「思ひ絶えたる」とあるが、何を「思ひ絶えた」のか。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **35**。

- ① 自宅に帰ること
② 物忌を継続すること
③ 女性の返事が届くこと
④ 女性を訪ねてゆくこと
⑤ あれこれ物思いにふけること

問三 傍線部3「姥捨山の心地」は、『古今集』所載の和歌「我が心慰めかねつ更級や姥捨山に照る月を見て」を踏まえた表現である。どのような「心地」を表したものが、十字以内で説明せよ。解答用紙(その2)を使用。

問四 傍線部4「なにの人目や」の説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **36**。

- ① 誰かに見られていたかもしれないと心配する中納言の心内語
- ② 一夜をともにした女性の美しさを回想し感嘆する中納言の気持ち
- ③ 人目など憚る必要があるかという気持ちを表す中納言の心中表現
- ④ 誰その目がありますからと不用意な外出をいさめる側仕えの忠告
- ⑤ 人目が気になって、思うように行動できないでいる中納言の現状の叙述

問五 傍線部5「ふりはへまほしく」の「ふりはふ」は、本来ある行為・動作をことさらにする意であるが、ここではどのような行為・動作についていったものか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **37**。

- ① 帰郷する
- ② 走り回る
- ③ ふり払う
- ④ 訪ねて行く
- ⑤ さまよい歩く

問六 傍線部6「つきなきこと」の現代語訳として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **38**。

- ① まつわること
- ② 際限のないこと
- ③ 覚えのないこと
- ④ 似合わないこと
- ⑤ 似つかわしいこと

問七 傍線部7「折うれしう」と述べた中納言の本心は、宮の中将を通じて九条で出会った女性の情報を聞き出す機会が訪れたことを喜んだところにあるが、表向き理由としてはどのように述べているか。最適なもの^を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **39**。

- ① 宮中に不慣れで、ほとんど顔見知りの人がいないから
- ② 一人で眺めるには月の光があまりにすばらしい夜だから
- ③ 月の光を一人で眺めていることに少々退屈してきたから
- ④ 人から離れて一人で過ごす時間は遅々として進まないから
- ⑤ 宮中のどこを訪ねても、ともに風流の分かる相手が見つからないから

問八 傍線部8「思ふもしるく」の現代語訳として最適なもの^を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **40**。

- ① 思ったとおりに
- ② 思った以上に
- ③ 思いを察して
- ④ 記憶を辿って
- ⑤ 記憶も鮮明に

問九 「さやかにみつる月かなことならば影をならぶる契りともがな」の歌にはいわゆる掛詞が用いられている。意味が重ねられている二つの語を、例にならって二つの漢字を用いて記せ。解答用紙(その2)を使用。

(例) ながめ (眺め/長雨)

問十 傍線部9・10の「月」は、それぞれ誰が^な喩えられているか。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。9の解答欄番号は

41、10の解答欄番号は **42**。

- ① 中宮
- ② 中納言
- ③ 宮の中将
- ④ 石山に籠りあひてはべりし人
- ⑤ あとより恋のせめくる心地する人

問十一 傍線部II「されば」乱れ散りつらむ気色したりつるこそ」は中納言の心中表現であるが、その内容の説明として最適なもの
を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 43。

① 聞き出そうとしている女性の印象と宮の中将が石山で出会った女性の態度が一致しないことに戸惑いながらも、九条で
一夜をともしたときの女性の様子の追憶に傾いてゆく

② 一般論として、女性は初めて出会った男性に対して軽率に返歌などすべきではないと思うものの、九条で一夜をともし
たときに見せた恥じ入るような様子こそ女性本来の姿と考えている

③ 初めて出会った男性に手慣れた様子ですばやく返歌する女性の才能に感嘆するとともに、九条で一夜をともしたとき
に見せた女性の消え入るような様子を思い出して、より強く魅了されてゆく

④ 男性に対して当意即妙に返歌をする女性の知的な一面を知ったことで、九条で一夜をともしたときのうぶな印象の更
更を迫られつつも、それまで以上に魅了されてゆく自身の心を押さえかねている

⑤ 女性が当意即妙に歌を返す優れた才能の持ち主であったことを知って驚いたものの、九条で一夜をともしたときに見
せた女性の当惑した様子は、不意な出来事であったためなのだとな納得しようとしている

問十二 二重傍線部a～eの「たまふ」のうちには、aと異なる語が含まれている。それをすべて選び出すとき、正しい組み合わせ
はどれか。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 44。

① b c

② b c d

③ b c d e

④ d

⑤ d e

問十三 傍線部12「絶えて久しくなりはべりぬ」とあるが、その理由は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせ

よ。解答欄番号は 45。

- ① 思ったよりも高い教養の持ち主ではなかったから
- ② 家柄や身分がそれほど高くない相手であったから
- ③ 相手の態度が非常にそつけない態度であったから
- ④ 前世からの因縁というべき相手ではなかったから
- ⑤ 両親づきで裕福な暮らしぶりに嫌気がさしたから



